



## 剣道 富士ゼロックス剣道部

聞き手／武藤泰明

### Point of View

企業スポーツの在り方を  
静かに実現する

剣道というなじみのない人が多い。しかし、国内の有段者数は約160万人である。柔道の登録競技者数は20万人弱である。単純な比較はできないが、意外に競技者が多い。また160万人のうち女子が46万人。武道にしてはダイバーシティを実現している。世界剣道選手権には56カ国が参加する。つまり、ダイバーシティやクールジャパンといわれる前から、剣道は静かに「日本の在り方」を実現してきた。

富士ゼロックス剣道部員89名のうち、3分の2が40歳以上である。このことも、日本の在り方、日本の企業スポーツの在り方を示しているように思える。

武藤泰明（むとう・やすあき）  
早稲田大学スポーツ科学学術院教授。東京大学、同大学院（修士）卒。三菱総合研究所主席研究員を経て現職。専門はマネジメント。

連載第6回は、富士ゼロックス剣道部の三木監督を訪ねた。

**武藤** 剣道部の創部はいつですか。

**三木** 1972年、会社ができて10年目につくられました。現在の部員は男女合わせて89名。東京、関西、九州など全国に部員がおり、男子は東京に3チーム、大阪に1チーム、女子は大阪に1チームあります。別法人で富士ゼロックス東京にも剣道部があり、こちらは58名います。稽古は2社合同で行うことが多いですが、大会には別チームで出場しています。

**武藤** 成績はいかがですか。

**三木** 一般（男子）はちょうどこの6月に関東実業団剣道大会で優勝しました。3年ぶり7回目の優勝です。女子は創部2年目ですが近畿大会で準優勝しました。

**武藤** 優勝するほどレベルの高い部員はどうやって集めるのですか。

**三木** 主に大学の剣道部の超一流クラスから数名に絞って声を掛けます。剣道で培ったものを仕事に活かせる人材をスカウトするわけ

ですが、剣道部として採用するわけではなく、一般採用なので、あくまでお誘いというかたちです。剣道をやっていると、警察や教員になりたいという場合もありますから、まずは実業団で剣道を通じてたいという希望があるなら、うちを受けたい、という感じです。

**武藤** 会社からのサポートは？

**三木** 大会に参加するための登録費用などの支援があります。部費や合宿、遠征はすべて自費なので、ほとんど自分たちで運営しているかたちです。

**武藤** 稽古はどこで？

**三木** 海老名事業所にある武道場で行っています。富士ゼロックス東京と合同で稽古をするときは、同じ敷地にあるアリーナで行います。毎週土曜の午前中に部としての稽古があり、あとは各自、道場に行ったり大学や警察に出稽古に行ったりしています。

剣道は生涯スポーツなので年齢層も幅広く誰でも始められるのが魅力です。部員の中には、各地域にある道場などで子供たちに教え

ている者も多くいます。これらはすべて個人の地域貢献活動でボランティアです。

**武藤** 大会の応援に部員以外が来ますか。

**三木** 職場の同僚、上司などが来てくれます。全日本大会には社長も来てくれることになっています。

**武藤** 部活動が日本の剣道の発展に貢献しており、企業がそれを支援しているところが面白いですね。スポーツが福利厚生で始まって定着し、ハイレベルになった例は他国にはないと思います。

**三木** 日本で企業が持っている剣道部は多く、関東で約230、全日本では300を超えるチームが大会に出場しています。当社は剣道で学んだことを仕事に活かすというところで部ができました。部員の目標はさまざまで、全国大会に出たいとか、剣道が好きだから続けたいなど、それぞれ違います。優勝して広報的な役割を果たすこともありますが、剣道を通して仕事で力を発揮する、他の社員をけん引することが期待されています。



←2016年関東実業団剣道大会優勝



三木 勲（みき・つとむ）  
／富士ゼロックス剣道部監督。剣道六段。グローバルサービス営業本部。